

「部門サーバ・ログイン認証モジュール」 操作マニュアル

第7版

概要

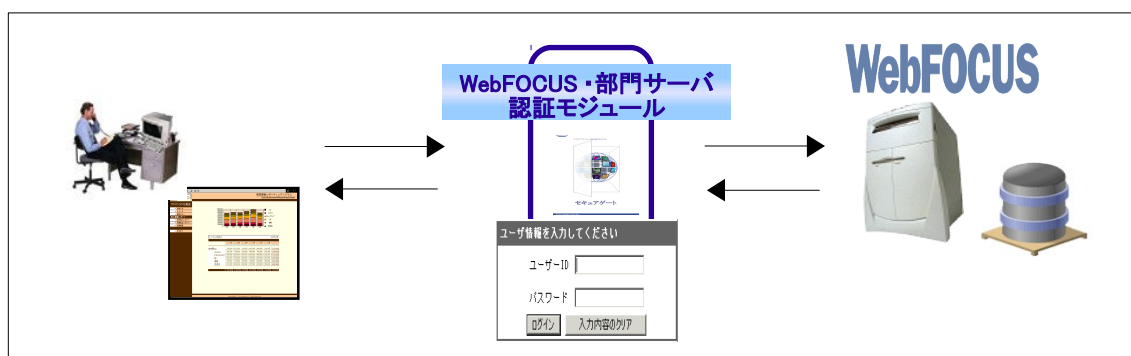
■部門サーバ・ログイン認証モジュールとは

部門サーバ・ログイン認証モジュールは、WebFOCUS を利用するユーザ情報を登録する為のモジュールです。本モジュールにより、WebFOCUS の部門サーバを利用する際の指名ユーザ数を制限します。

■動作概要

部門サーバ・ログイン認証モジュールは、下図のように WebFOCUS のリバースプロキシサーバとして動作します。ユーザが実行したリクエストは、部門サーバ・ログイン認証モジュールの認証を通過することにより、WebFOCUS に受け渡され、WebFOCUS サーバ上でレポートが処理されます。

部門サーバ・ログイン認証モジュールの認証を通過したユーザには、WebFOCUS のレポート(プロシジャ、HTML ファイル)を実行する為に必要な権限が自動的に付与されます。



■目次

1 章 【ユーザの操作】

- WebFOCUS のレポートを実行する P3
 - パターン 1) レポートのリクエストを実行してから認証画面を表示
 - パターン 2) 認証を実施してから、レポートのリクエストを実行
- パスワードを変更する P7

2 章 【管理者の操作】

- 管理者メニューにアクセスする P9
- ユーザを作成する P10
- ユーザを編集する P12
- ユーザを削除する P13
- ログイン状況表示 P14
- マスタデータのダウンロードをする P15
- マスタデータのアップロード(差分更新)をする P16
- アクセスログを参照する P21

3 章 【運用について】

- ParamGen.properties の編集について P22
 - (パスワードポリシー、ログの保存先、WebFOCUS の Web サーバポート)
- ログイン後に表示される静的ページの設定 P24
- ログアウト処理を行う為の設定 P25
- WebFOCUS のセキュリティモードについて P25

4 章 【サービスの開始/停止】

- サービスの開始/停止 P26

1 章 : ユーザ操作について

■WebFOCUS のレポートを実行する

部門サーバ・ログイン認証モジュールを利用して、WebFOCUS のレポートを実行する際は、部門サーバ・ログイン認証モジュールのログイン画面が表示されます。

レポートの実行方法として、以下の 2 つの方法があります。

パターン 1) レポートのリクエストを実行してから認証画面を表示

[レポートのクエスト実行]→[認証画面表示]→[ID/PW 入力]→[レポート表示]

パターン 2) 認証を実施してから、レポートのリクエストを実行

[認証画面表示]→[ID/PW 入力]→[静的ページ]→[レポートのリクエスト実行]→[レポート表示]

パターン 1) レポートのリクエストを実行してから認証画面を表示

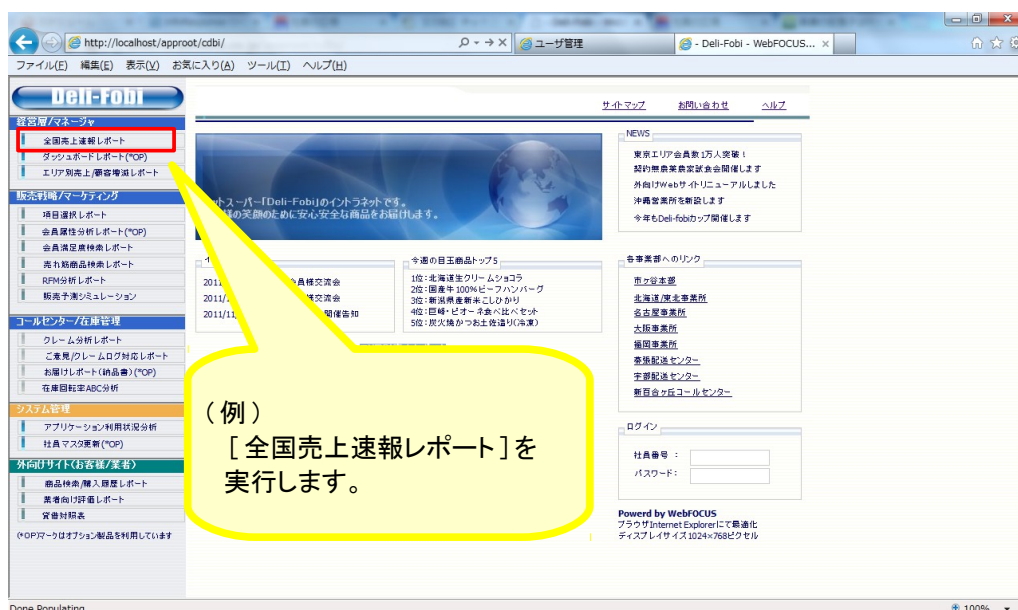
1. WebFOCUS のレポートにアクセスします。

メニュー画面等から WebFOCUS のレポートにアクセスを行います。

※WebFOCUS のレポートの呼び出し方はお客様環境により異なります。

下図は社内ポータルから WebFOCUS レポートにアクセスしている場合の例です。

メニューにプロシジャ呼び出し用のハイパーリンクが設定されています。



2. 部門サーバ・ログイン認証モジュールのログイン画面が表示されます。

3. ログイン画面で管理者から付与されたユーザ ID とパスワードを入力します。
[ログイン]ボタンをクリックします。

※ログイン画面で、事前に管理者によって用意された「ユーザ ID」と「パスワード」を入力し、認証を行います。認証を通過すると、WebFOCUS のレポートが表示されます。

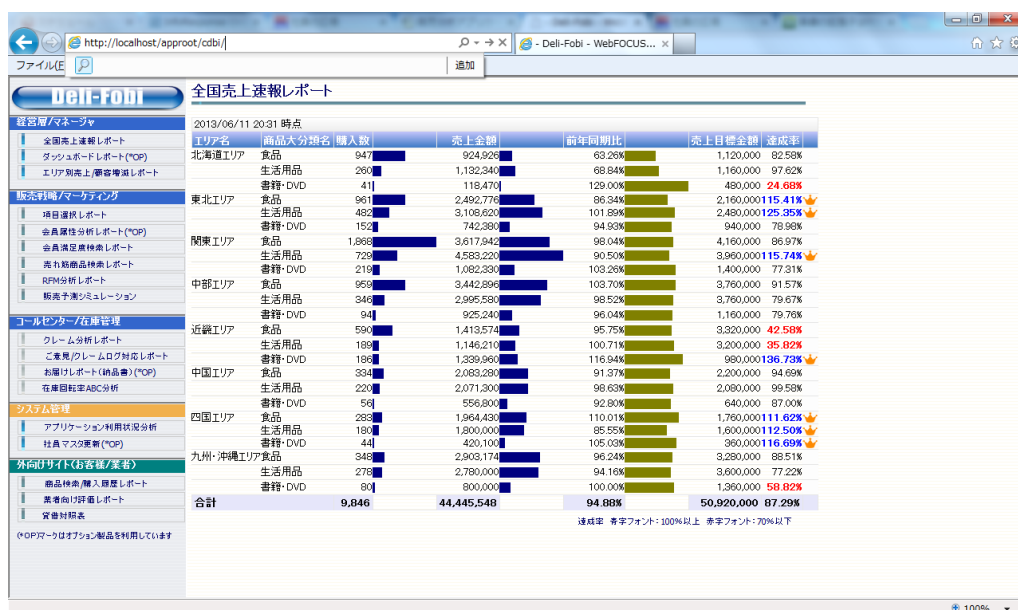
ユーザ情報を入力してください

ユーザーID

パスワード

☐ ログイン後パスワード変更

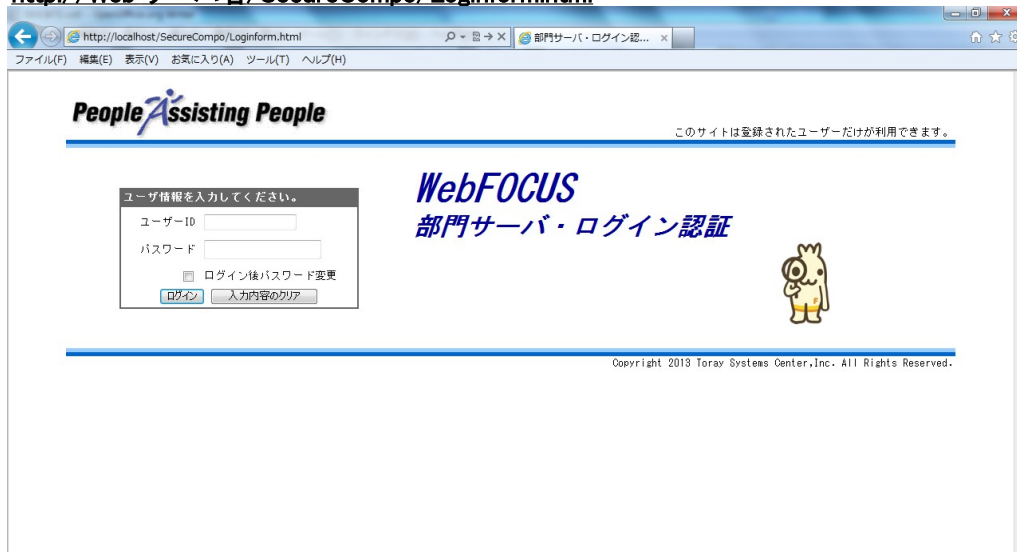
4. WebFOCUS のレポートが実行され、ブラウザに結果が表示されます。



パターン 2) 認証を実施してから、レポートのリクエストを実行

1. ブラウザより以下ユーザの認証画面 URL を実行します。

<http://Webサーバ名/SecureCompo/Loginform.html>



2. ログイン画面で管理者から付与されたユーザ ID とパスワードを入力します。
[ログイン]ボタンをクリックします。

ユーザ情報を入力してください

ユーザーID

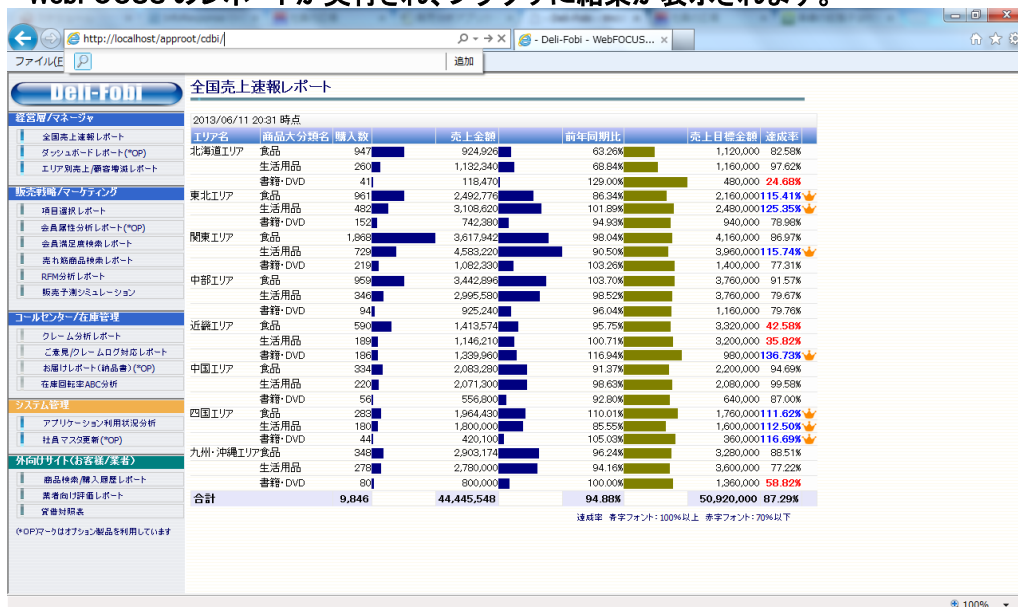
パスワード

☐ ログイン後パスワード変更

3. 管理者によって用意された静的ページが表示されます。表示したいレポートのリンクをクリックします。
※以下は WebFOCUS のレポートを呼び出すためのリンクが定義されたメニュー例です。
静的ページの設定方法は第 3 章を参照下さい。



4. WebFOCUS のレポートが実行され、ブラウザに結果が表示されます。

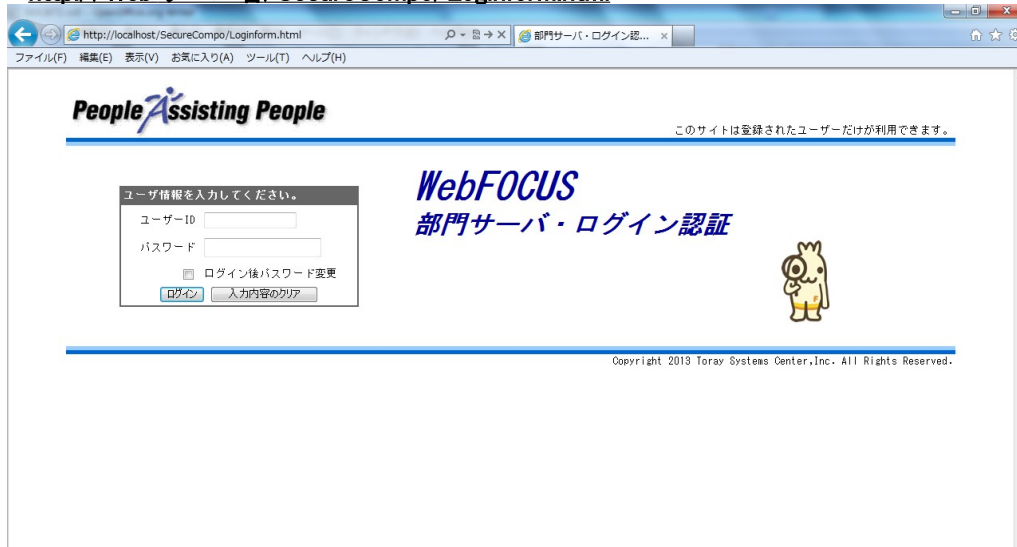


■パスワードを変更する

ユーザは管理者によって付与されたパスワードを任意に変更することができます。
新しいパスワードは管理者が決めたパスワードポリシーに基づいて設定することができます。

1. ブラウザより以下ユーザの認証画面 URL を実行します。

<http://Webサーバ名/SecureCompo/Loginform.html>



2. 管理者に付与されたユーザIDとパスワードを入力し、[ログイン後パスワード変更]にチェックを入れます。[ログイン]ボタンをクリックします。

ユーザ情報を入力してください

ユーザーID	kawashima
パスワード	●●●●●●
☒ ログイン後パスワード変更	
ログイン	入力内容のクリア

3. パスワード変更画面で、今まで利用していたパスワードと新しく設定するパスワードをそれぞれ[旧パスワード]と[新パスワード]の欄に入力します。
[変更]ボタンをクリックします。

正常にパスワード変更が完了すると[パスワードが変更されました]というメッセージが表示されます。
管理者が定義したパスワードポリシーに反したパスワードを設定した場合は、パスワードポリシーに応じたメッセージが表示されます。(ex. パスワードには数字を含めてください)

パスワード変更

旧パスワードを入力して下さい

旧パスワード

新パスワード

確認入力

【パスワードポリシー】

- 最大 30文字
- 最小 3文字
- 直前のパスワードと同一は不可
- パスワードを連続 3回間違えるとIDがロックされます
- IDロック後 5分で自動的に復旧

※本パスワード変更作業は WebFOCUS レポートにアクセスした際にも行うことができます。
部門サーバ・ログイン認証モジュールのログイン画面で、[ログイン後パスワード変更]に
チェックを入れると、上記パスワード変更画面に画面遷移します。

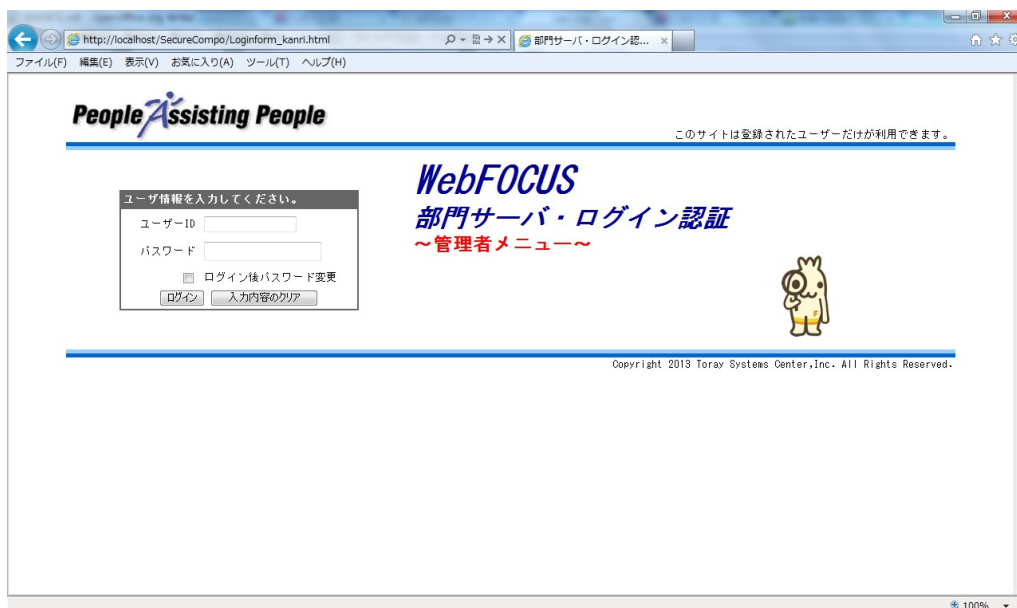
※変更したパスワードは、ユーザ自身が再度パスワード変更するまで、有効となります。
しかし、管理者がパスワードの有効期限を設定した場合は、その期限が過ぎると認証後、
強制的にパスワード変更画面に画面遷移します。

2 章： 管理者操作について

■管理者メニューにアクセスする

部門サーバ・ログイン認証モジュールには、管理者用のメニューが用意されています。
この管理者メニューは、管理者権限を持つユーザのみが閲覧可能です。
管理者メニューからユーザ作成等を行います。

1. 管理者メニューにアクセスします。
ブラウザより以下管理者メニューの URL を実行します。
※管理者メニュー「Loginform_kanri.html」ユーザの認証画面とは URL が異なるので、ご注意ください。
http://Webサーバ名/SecureCompo/Loginform_kanri.html



2. 管理者権限を持つユーザ ID とパスワードを入力します。
[ログイン]ボタンをクリックします。
※デフォルトの管理者 ID は「admin」、パスワードは「admin」です。

ユーザ情報を入力してください

ユーザーID	admin
パスワード	
☐	ログイン後パスワード変更
ログイン	入力内容のクリア

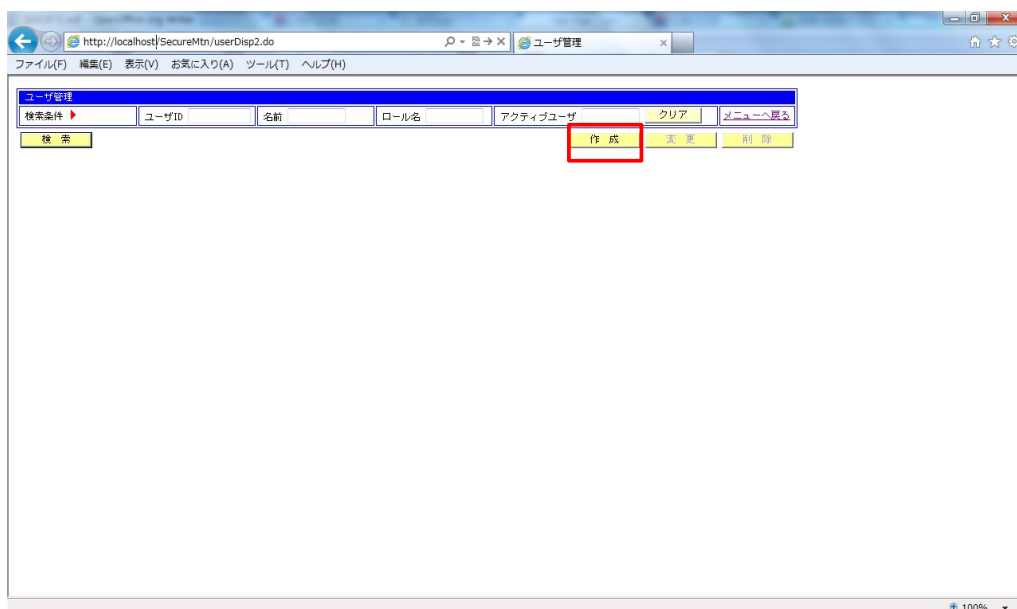
3. 管理者メニューに管理者が操作できる機能一覧が表示されます。



■ユーザを作成する

部門サーバ・ログイン認証モジュールを利用するユーザの登録を行います。
ユーザ登録を行わないと WebFOCUS のレポートを実行する権限が付与されません。

1. 管理者メニューにアクセスし、[ユーザ管理]をクリックします。
2. [ユーザ管理]画面で新規ユーザを作成します。
画面右側の[作成]ボタンをクリックします。



3. ユーザ作成画面で[ユーザID]、[パスワード]、[名前]等を入力します。

ユーザ作成画面で必須入力の項目は以下の3つです。

- ・ ユーザID（一意である必要があります）
- ・ パスワード（パスワードポリシーは新規作成の時点では、適用されません）
- ・ 名前

ユーザ情報	
ユーザID	kawashima
パスワード	●●●●●●●●
パスワード(確認用)	●●●●●●●●
名前	川島
アクティブユーザとして登録	☒ ?
パスワード期限(YYYYMMDD)	クリア ?
ユーザID利用開始(YYYYMMDD) ～終了日時(YYYYMMDD)	~ クリア ?
メールアドレス	kawashima@ashisuto.co.jp
所属部署	情報基盤事業部

<その他任意の入力項目について>

項目	説明
アクティブユーザとして登録	ユーザ登録はするが、ユーザとしては「非アクティブ」にしたい時に、チェックを外します。部門ライセンスによる指名ユーザ数は「アクティブユーザ数」をカウントします。 ※ライセンスで許諾されているユーザ数を超えて、ユーザ登録を行った際は、自動的に「非アクティブユーザ」として登録されます。
パスワード期限	パスワードの有効期限を設定します。有効期限を過ぎると認証後にパスワード変更画面へと自動的に画面遷移します。
ユーザID 利用開始 ～ 終了日時	登録したユーザIDの利用開始日時と終了日時を設定します。指定された日時でのみユーザは利用可能になります。
メールアドレス	メールアドレスの情報を入力します。
所属部署	所属部署の情報を入力します。

4. [登録]ボタンをクリックし、ユーザ情報を保存します。

■ユーザを編集する

1. 管理者メニューにアクセスし、[ユーザ管理]をクリックします。
2. [ユーザ管理]画面でユーザの検索を行います。
画面上部の[検索条件]BOXに編集を行いたいユーザIDの情報を入力して検索を行います。
※条件を入力せず、画面左側の[検索]ボタンをクリックすると登録されている全ユーザー一覧が表示されます。

ユーザ管理

検索条件: ユーザID kawashima | 名前 | ロール名 | アクティブユーザ | クリア | メニューへ戻る

検索 | 作成 | 変更 | 削除

3. ユーザー一覧から編集したいユーザIDを選択した状態で、画面右側の[変更]ボタンをクリックします。

ユーザ管理

検索条件: ユーザID kawashima | 名前 | ロール名 | アクティブユーザ | クリア | メニューへ戻る

検索 | 作成 | 変更 | 削除

検索結果: 1件 (1-1件目表示): 現在1ページ目を表示中

ユーザID	名前	ロール名	初期メニュー	アクティブユーザ
kawashima	川島 省吾	最低限度必要な特権	管理者メニュー	☐

検索日時: 2010-08-11 21:35:45

4. 任意の項目を編集します。

ユーザ情報	
ユーザID	kawashima
パスワード	●●●●●●●●
パスワード(確認用)	●●●●●●●●
名前	川島 省吾
アクティブユーザとして登録	☒ ?
パスワード期限(YYYYMMDD)	クリア ?
ユーザID利用開始(YYYYMMDD) ～終了日時(YYYYMMDD)	~ クリア ?
メールアドレス	kawashima@ashisuto.co.jp
所属部署	情報基盤事業部

登録 | リセット | 一覧画面へ戻る

5. 編集が終了したら、[登録]ボタンをクリックして、ユーザ情報を保存します。

■ユーザを削除する

1. 管理者メニューにアクセスし、[ユーザ管理]をクリックします。
2. [ユーザ管理]画面でユーザの検索を行います。
画面上部の[検索条件]BOXに編集を行いたいユーザ ID の情報を入力して検索を行います。
※条件を入力せず、画面左側の[検索]ボタンをクリックすると登録されている全ユーザー一覧が表示されます。
3. 編集を行いたいユーザ ID を選択した状態で、画面右側の[削除]ボタンをクリックします。

ユーザID	名前	ロール名	初期メニュー	アクティブユーザ
kavashima	川島	最低限度必要な特権	管理者メニュー	○

4. ユーザー一覧から選択したユーザ ID が削除されたことを確認します。

※注意※

インストール時にデフォルトにて登録される「admin」、「guest」ユーザは必ず必要なユーザになります。削除しないようご注意ください。

■ログイン状況表示

ログイン状況表示画面では、ログイン中のユーザ状況を確認することができます。

ログイン中のユーザに対して、強制ログアウトやアカウントロックされたユーザに対するロック解除を行います。

※時間経過による「自動アンロック」を無効にしている場合や「自動アンロック」前にアカウントロックを解除したい場合は、管理者がログイン状況表示画面からユーザのアカウントロックを解除します。

1. 管理者メニューにアクセスし、[ユーザログイン状況]をクリックします。
2. 画面上部に、現在ログインしているユーザの状況が表示されます。
ログイン ID を選択し、[Login Cancel] ボタンをクリックすると強制ログアウトをさせることができます。

画面下部に、アカウントロックされたユーザ（認証に失敗したユーザを含む）の情報が表示されます。

ログイン ID を選択し、[Clear and Unlock] ボタンをクリックするとユーザのアカウントロックを解除することができます。

ユーザがロック状態にある場合は、[ロック]部分に[●]が表示されます。

※アカウントロックの機能は、オンメモリでユーザのロック回数を保持しています。

部門サーバ・ログイン認証モジュールのサービスを再起動すると、ユーザのロック状態はクリアになります。

ユーザログイン状況

全体多重度:0

検索日時: Wed Jun 12 09:47:13 JST 2013

	ログインID	名前	ラストアクセス日時	ログイン日時	ユーザ多重度
☐	admin	管理者	Wed Jun 12 09:47:13 JST 2013	Wed Jun 12 09:31:15 JST 2013	0
☐	user1	ユーザ 1	Wed Jun 12 09:30:33 JST 2013	Wed Jun 12 09:30:21 JST 2013	0

Clear and Unlock

検索結果: 1 件

	ログインID	名前	失敗回数	ロック	ラストアクセス日時
☐	user2	ユーザ 2	3	●	Wed Jun 12 09:46:44 JST 2013

再表示

15秒毎に自動で再表示しております

管理Menu^

■ マスタデータのダウンロードをする

マスタデータのダウンロードを実施すると、部門サーバ・ログイン認証モジュールのリポジトリデータベース上に格納されている全てのユーザ情報をダウンロードすることができます。

リポジトリデータベースのバックアップを取得する際に利用することができます。

ダウンロードしたユーザ情報は、専用の Excel ファイルにて編集し、再度リポジトリデータベースにアップロードすることも可能です。(アップロードに関しては、次ページを参照下さい)

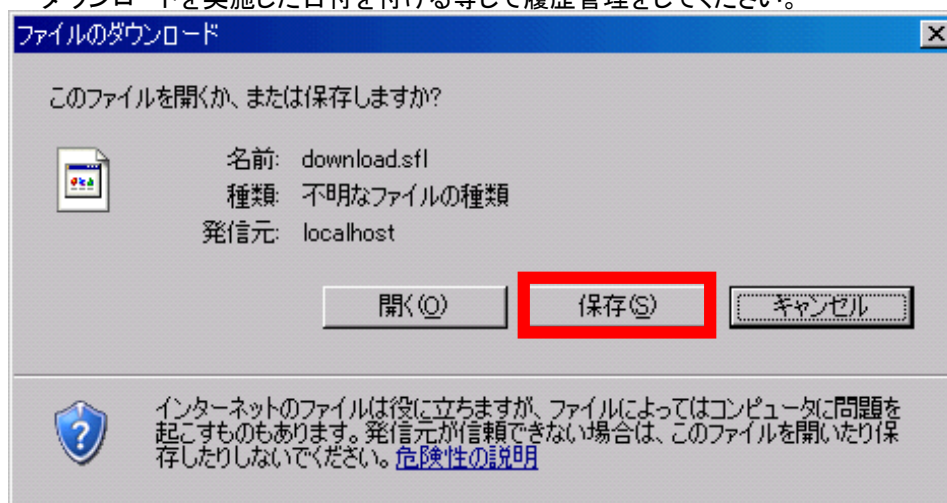
1. 管理者メニューにアクセスし、[マスタデータのダウンロード]をクリックします。

2. ファイルのダウンロード画面が表示されます。

[保存]ボタンをクリックして、ファイルを保存します。(保存ディレクトリは任意)

保存されたファイルは、「download.sfl」という名称と拡張子で保存されます。

※リポジトリデータベースのバックアップ目的で、ユーザ情報をダウンロードする場合は、ファイル名にダウンロードを実施した日付を付ける等して履歴管理をしてください。



■マスタデータのアップロード(差分更新)をする

マスタデータのアップロード(差分更新)の機能を利用すると、管理ツールからのユーザ登録ではなく、専用の Excel ファイル上で追加したいユーザ ID やパスワードをまとめて入力し、それらの情報を一括でリポジトリデータベースにアップロードすることができます。その際、Excel 上にて追加された差分情報のみをアップロードします。本機能は、組織変更等で部門サーバ・ログイン認証モジュールの利用ユーザが増えたときのメンテナンス等に利用することができます。

※尚、本機能は差分更新の為、既存ユーザをリポジトリデータベース上から削除する場合の利用はできません。ユーザの削除は管理メニュー[ユーザ管理]から行う必要があります。

アップロードを実施するためには「upload.sflb」ファイルを作成します。

「upload.sflb」はリポジトリデータベースの全情報をダウンロードした「download.sfl」(前ページを参照)を元に専用の Excel にて作成します。

>>差分更新用 Excel ファイルについて

「upload.sflb」ファイルの作成を行う専用の Excel ファイルはインストールドライブの以下に配置されています。

<インストールドライブ>:\¥SecureCompo¥MasterMtnExcel¥認証システム管理_差分更新 2007V4x.xls

※Excel ファイル名の「V4x」の箇所は、ご利用のログイン認証モジュールの環境により異なります。

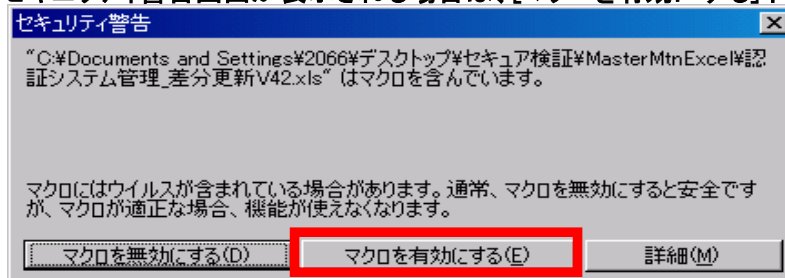
MasterMtnExcel ディレクトリに存在する Excel ファイル名称と置き換えてください。

また、以下説明文も使用される Excel ファイル名称に置き換えて参照ください。

1. 「認証システム管理_差分更新 V4x.xls」を実行し、「download.sfl」を開きます。

ファイル名は任意です。拡張子が「.sfl」であれば、専用の Excel ファイルから開くことができます。

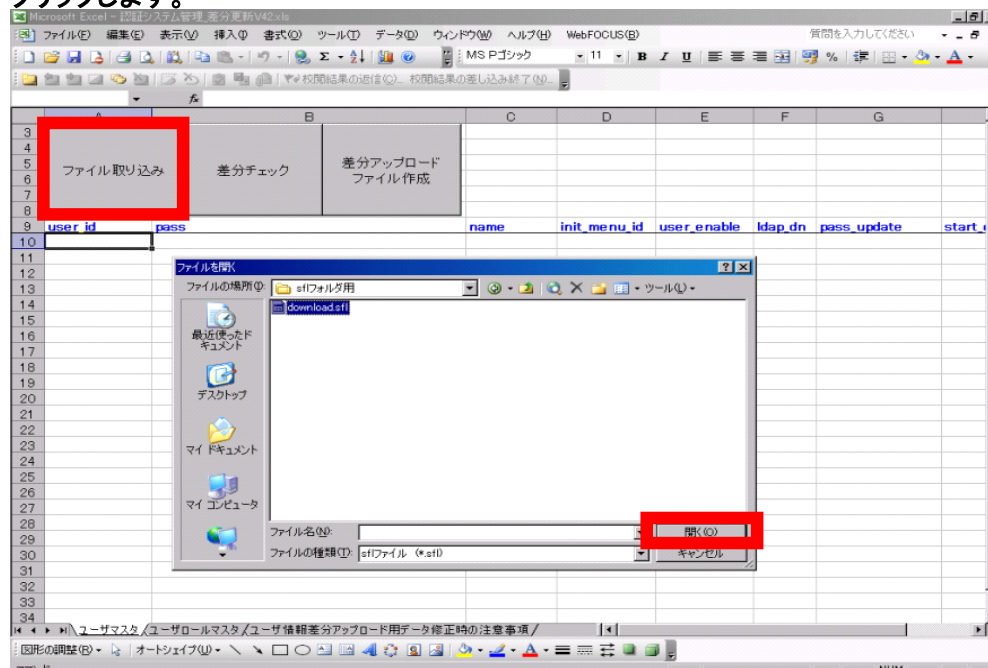
セキュリティ警告画面が表示される場合は、[マクロを有効にする]ボタンをクリックします。



2. 「認証システム管理_差分更新 V4x.xls」の画面が表示されます。

[ファイル取り込み]ボタンをクリックします。

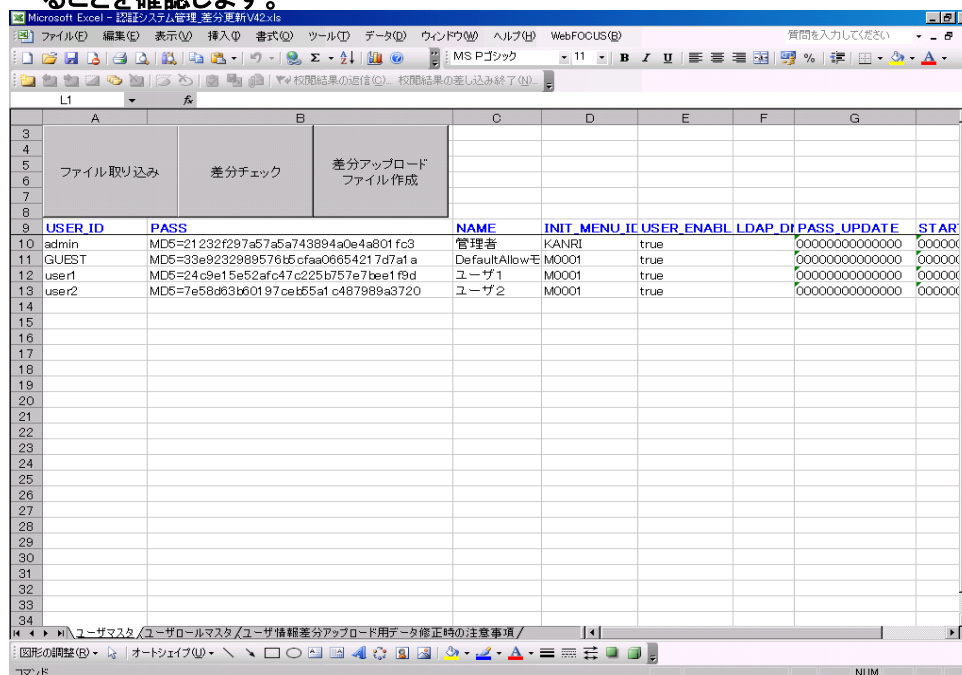
[ファイルを開く]画面が表示されます。取り込み対象となる[download.sf]を選択して、[開く]ボタンをクリックします。



3. [ファイルの取り込み完了しました]というメッセージが表示されます。

[OK]ボタンをクリックして、メッセージ画面を閉じます。

Excel マクロが実行され、「download.sf」に格納されたユーザ情報が Excel の Sheet 上に展開されていることを確認します。



4. ユーザ情報を編集します。

(例) ユーザ/ロールを編集する場合、関連マスタ(ユーザマスタ、ユーザロールマスタ)を編集します。

※以下、ご参考としてユーザマスタ、ユーザロールマスタのマスタ情報を記載します。

■ユーザマスタ

ユーザに関する情報が記載されるマスタです。

ユーザの[ID],[パスワード],[名前],[初期メニュー]等の情報が記載されます。

項目名	桁数	必須	キー	説明と注意事項
USER_ID	40	Y	◎	ユーザの ID ※半角英数字のみ入力可能
PASS	40	Y		パスワード ※半角英数字のみ入力可能 ※アップロードしたタイミングでマスクされます
NAME	60	Y		ユーザ名
USER_ENABLE	10	Y		アクティブユーザかどうか(true/false の文字列) ※ライセンス数を超えるアクティブユーザを登録できません ※ライセンス数を越えた時点で非アクティブユーザとして登録されます
INIT_MENU_ID	10	Y		初期表示メニュー ※MENU_MASTERに登録されている MENU_ID のみ入力可能
LDAP_DN	250	N		LDAP の DN ※LDAP認証で複数ユーザ存在する場合、ユーザIDごとにDNを指定
PASS_UPDATE	14	Y		パスワード期限 ※YYYYMMDD000000 形式で入力 ※指定しない場合は 0000000000000000 と入力
START_DATE	14	Y		ID の有効期限 開始 ※YYYYMMDD000000 形式で入力 ※指定しない場合は 0000000000000000 と入力 ※END_DATE が入力されている場合、START_DATE より遅い日付は 入力不可
END_DATE	14	Y		ID の有効期限 終了 ※YYYYMMDD000000 形式で入力 ※指定しない場合は 0000000000000000 と入力
E-mail	255	N		メールアドレス
POST_NAME	255	N		部署情報

■ユーザロールマスタ

ユーザ ID とロールの関係が記載されるマスタです。

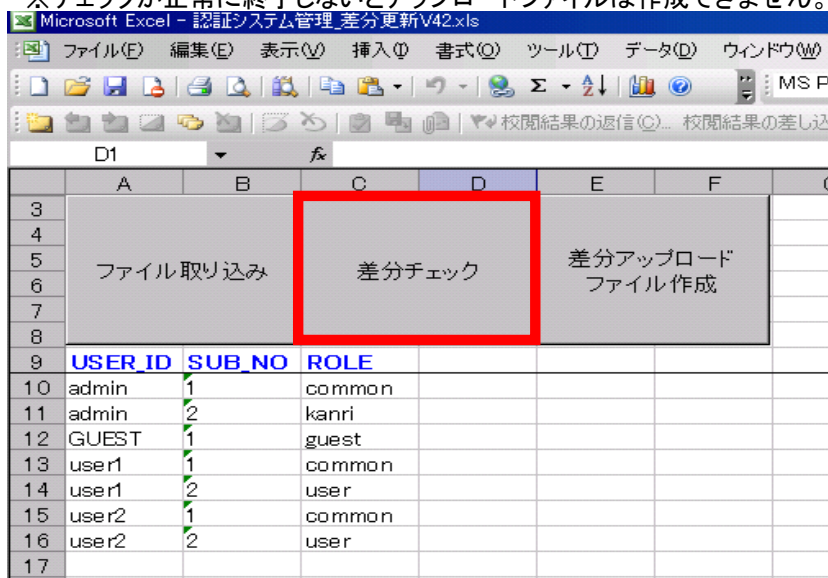
項目名	桁数	必須	キー	説明と注意事項
USER_ID	40	Y	◎	ユーザの ID
SUB_NO	8	Y		ROLEの有無を確認する為に使用。 ※ROLEに対して必ず一意である必要有
ROLE	20	Y		ロール

ユーザを追加した際の、SUB_NOとROLEの書き方は以下の通りです。

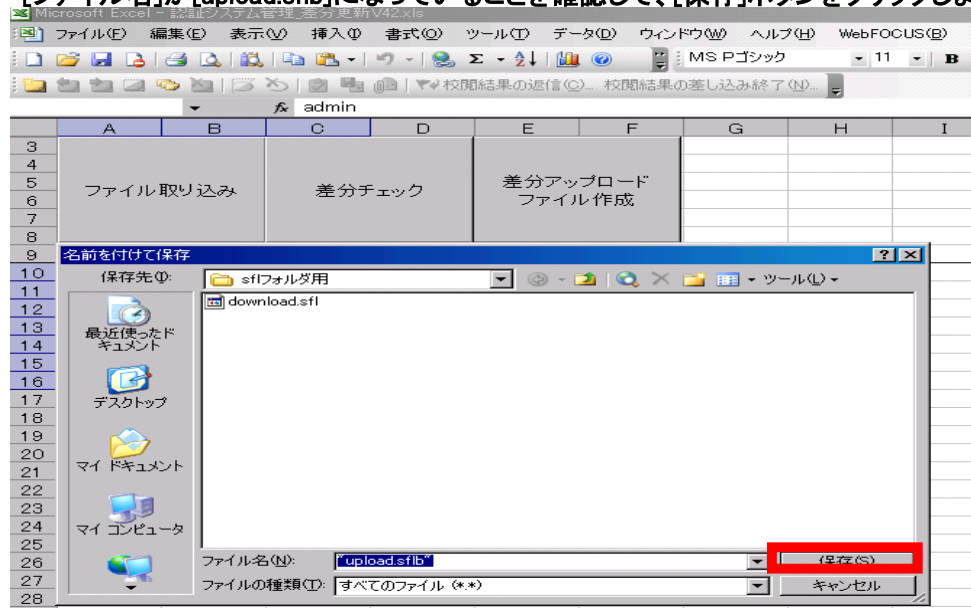
user_id	sub_no	role
user1	1	common
user1	2	user
user2	1	common
user2	2	user

user_id に対して、sub_no「1」とrole「common」、
sub_no「2」とrole「user」の2行の記述が必要です。

5. [差分チェック]ボタンをクリックし、入力した内容に間違いがないかをチェックします。
 [チェック完了しました]というメッセージが表示されます。
 [OK]ボタンをクリックして、メッセージ画面を閉じます。
 ※入力内容に間違いや不足がある場合は、エラー内容が最後の[エラーシート]に記載されます。
 エラーシートのメッセージを参考に、入力内容を編集します。
 ※チェックが正常に終了しないとアップロードファイルは作成できません。

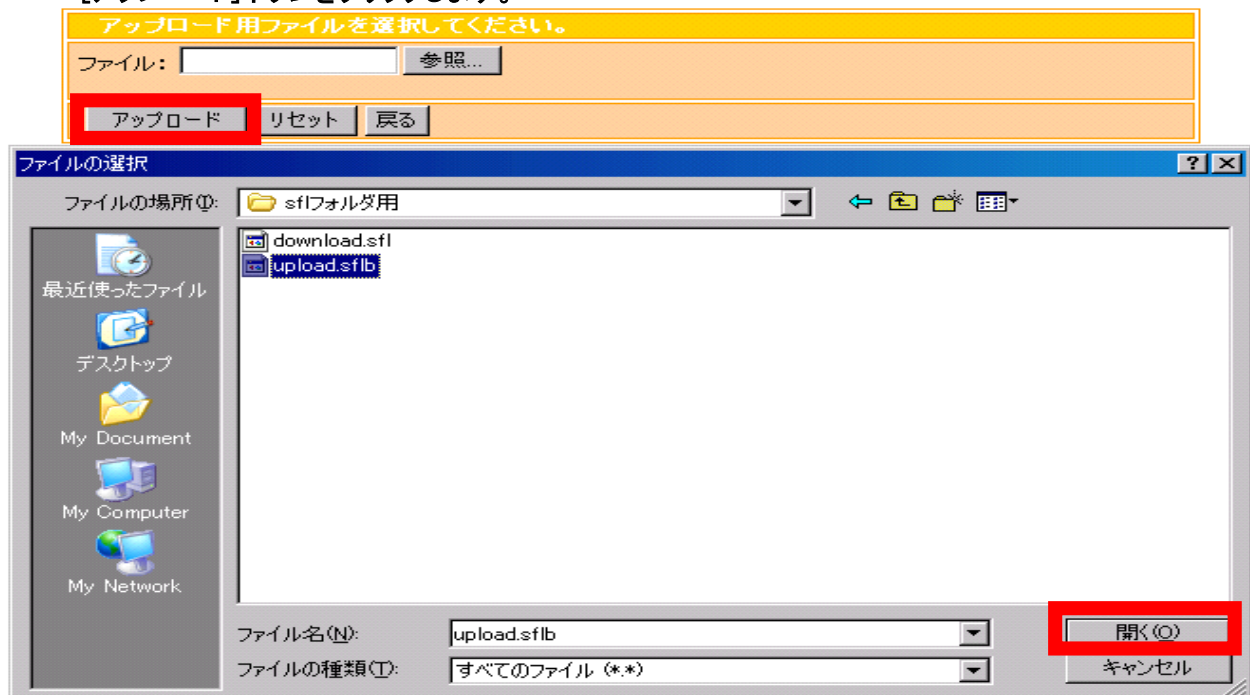


6. [差分アップロードファイル作成]ボタンをクリックします。
 [ファイル名]が[upload.sflb]になっていることを確認して、[保存]ボタンをクリックします。



7. 「ファイルの作成を完了しました」というメッセージが表示されます。
 [OK]ボタンをクリックして、メッセージ画面を閉じます。
 ※[upload.sflb]ファイルに関しては、ファイル名を変更すると正常にアップロード処理ができません。
 必ず、[upload.sflb]というファイル名で保存してください。

8. 管理者メニューにアクセスし、[マスタデータのアップロード(差分更新)]をクリックします。
アップロード用ファイルの選択画面で[参照]ボタンをクリックし、手順 6 で保存した[upload.sflb]
ファイルを選択し[開く]ボタンをクリックします。
[アップロード]ボタンをクリックします。



9. [アップロード終了です]というメッセージが表示されます。
10. 管理者メニューにアクセスし、[ユーザ管理]をクリックします。
Excel 上に追加登録したユーザ情報が反映されていることを確認します。

■アクセスログを参照する

アクセスログの参照機能は、WEB サーバのログを元に「いつ」「誰が」「どのレポートを実行したのか」といったユーザのアクセスログ、認証の失敗/成功の結果、管理者がどのような操作を行ったのかといった操作ログ等を参照することができます。

本機能を利用する為には、ログをデータベースに格納する必要があります。

ログの格納先の設定は、ParamGen.properties にて行います。

(ParamGen.properties に関しては、3 章を参照下さい。)

1. 管理者メニューにアクセスし、[ログ参照]をクリックします。
2. 画面上のツールバーからログの検索条件を入力します。
[検索]ボタンをクリックします。
※[ユーザ ID]で「admin」を検索条件として設定すると、管理者の操作ログのみを閲覧することができます。

検索結果: 15 件 (1~15件目表示) 検索日時: 2018-06-12 09:06:49

実行日付	ユーザID	実行プログラム	メッセージ	結果	セッションID
2018-06-11 22:45	admin	認証コア	Logout id=admin name=管理者 session id=a958e25756590d625dce8a68983df39	成功	a958e25
2018-06-11 22:43	GUEST	認証コア	Logout id=GUEST name=DefaultAllowモードでの初期ログインID (削除禁止) session id=e075f8d625870bf63f2b3ddce41de9	成功	e075f8
2018-06-11 21:48	admin	認証コア	Login success id=admin name=管理者 session id=1a00cc32d7957bebb2986787c88c5227 IP=0:0:0:0:0:0:1	成功	1a00cc3
2018-06-11 21:48	SYSTEM	認証コア	アクティブユーザ数チェック アクティブユーザ数=5 ライセンス数=50	成功	-
2018-06-11 21:47	admin	管理者による強制ログアウト	管理者により強制ログアウトされました キャンセル対象: admin: SessionID=9fe9ed20e6b3856012a58535e2ce8ff5 IP=0:0:0:0:0:0:1	成功	9fe9ed2
2018-06-11 21:47	admin	認証コア	Logout id=admin name=管理者 session id=9fe9ed20e6b3856012a58535e2ce8ff5	成功	9fe9ed2
2018-06-11 21:47	admin	管理者による強制ログアウト	管理者による強制ログアウトが失敗しました 対象は既に有効なログイン状態にはありません 対象SessionID= IP=0:0:0:0:0:0:1	失敗	9fe9ed2
2018-06-11 21:47	admin	認証コア	Login success id=admin name=管理者 session id=9fe9ed20e6b3856012a58535e2ce8ff5 IP=0:0:0:0:0:0:1	成功	9fe9ed2
2018-06-11 21:47	SYSTEM	認証コア	アクティブユーザ数チェック アクティブユーザ数=5 ライセンス数=50	成功	-
2018-06-11 21:47	user2	認証コア	Logout id=user2 name=ユーザ2 session id=1f08d816d04efdb1e75691f7e050202	成功	1f08d81
2018-06-11 21:46	user2	carinst	55 OK session normal end id=1f08d816d04efdb1e75691f7e050202 id=user2 request module=carinst IP=0:0:0:0:0:0:1	成功	1f08d81
2018-06-11 21:46	user2	carinst	55 OK session start id=1f08d816d04efdb1e75691f7e050202 id=user2 request module=carinst IP=0:0:0:0:0:0:1	成功	1f08d81
2018-06-11 21:46	user2	認証コア	Login success id=user2 name=ユーザ2 session id=1f08d816d04efdb1e75691f7e050202 IP=0:0:0:0:0:0:1	成功	1f08d81

3章：運用について

■ParamGen.properties ファイルを編集について

<ParamGen.propertiesとは>

ParamGen.propertiesとは部門サーバ・ログイン認証モジュールで設定できるパラメーター一覧が記述されたプロパティファイルです。ParamGen.propertiesを編集することで、部門サーバ・ログイン認証モジュール全体の動作環境を変更することができます。

<ParamGen.propertiesの編集の流れ>

ParamGen.propertiesを編集する際は以下の流れで操作を行ってください。

- 1) <インストールドライブ>:¥SecureCompo¥SecureCompo¥paramGen¥ParamGen.propertiesをバックアップ。
- 2) ParamGen.propertiesをNotepad等で開き、該当のパラメータを編集し、上書き保存。
- 3) <インストールドライブ>:¥SecureCompo¥SecureCompo¥paramGen¥paramGen.batを実行し、設定を反映。
※DOSの画面が流れます。最後に何かキーを押して、DOSの画面を閉じます
- 4) サービス[Secure Compo]を再起動。
※ParamGen.propertiesは大文字/小文字、スペースの有無を区別するので正確に記載して下さい。
※ParamGen.propertiesファイルの編集には、部門サーバ・ログイン認証モジュールの再起動が伴います。
システムのサービス稼働中に編集を行う際は、ご注意ください。

①パスワードポリシーを設定する

例)パスワードポリシーとして最小文字数を5文字以上にしたい場合

ParamGen.propertiesにて以下のパラメータを検索します。

デフォルトの「PASS_MIN_LENGTH=4」を「PASS_MIN_LENGTH=5」に変更します。

```
# パスワードポリシー 最小文字数
#      1～30
#
PASS_MIN_LENGTH=5
```

<その他のパスワードポリシー>

パラメータ名	内容	デフォルト値	変更値
PASS_MIN_LENGTH	パスワードの文字数	4	1～30
PASS_NUM_REQUIRE	パスワードに数値を要求する	no	yes/no
PASS_SIGN_REQUIRE	“ ” 記号を要求する	no	yes/no ※利用できる記号 ! " # \$ % & () = - , . @
PASS_SAME_ID_DISABLE	IDと同じパスワードは不可	no	yes/no
PASS_LOCK_MAX_ERR	連続不一致回数上限 (認証失敗の上限)	3	-1 無効 3～10
PASS_LOCK_AUTO_UNLOCK_TIME	連続不一致回数突破後のLOCKを自動でアンロックする(分)	5	-1 UNLOCKしない

※パスワードポリシーを変更した後は、パスワード変更画面の下部に表示されるパスワードポリシーのメッセージ部分に反映されていることを確認してください。

パスワード変更

ログアウト

旧パスワードを入力して下さい

旧パスワード

新パスワード

確認入力

【パスワードポリシー】
 最大 30文字
 最小 3文字
 直前のパスワードと同一は不可
 パスワードを連続 3回間違えるとIDがロックされます
 IDロック後 5分で自動的に復旧

②ログの保存先と保存日数

例) アクセスログの保存日数を 60 日に設定したい場合

ParamGen.properties にて以下のパラメータを検索します。

「LOG=DB」になっていることを確認します。

デフォルトの「LOG_VALIDITY_TERM=30」を「PLOG_VALIDITY_TERM=60」に変更します。

```
# Log DB 利用可否
# FILE:FILEのみ DB:FILEとDB両方
LOG=DB
```

```
# 日数
LOG_VALIDITY_TERM=60
```

※[LOG=DB]とした場合、データベース上とファイルの両方にログデータが格納されます。

例) アクセスログをファイルのみに格納する場合

ParamGen.propertiesにて以下のパラメータを検索します。

デフォルトの「LOG=DB」を「LOG=FILE」に変更します。

```
LOG=FILE
```

ログが格納されるファイルは以下のディレクトリにあります。

<DRIVE>:\SecureCompo\SecureCompo\logs\auth.log

[LOG=FILE]とした場合、対象ファイルの保存ディレクトリや保存履歴、ファイルサイズに関する設定を行うことが可能です。(デフォルトは、5MBで自動的にファイル切り替えを行い、8世代分のログを保存)

ログの履歴は「auth.log.1」「auth.log.2」のように「.n」が拡張子に追加された状態で保持されます。

履歴、ファイルサイズの変更手順は以下の通りです。

- 1) <DRIVE>:\SecureCompo\SecureCompo\paramGen\SecureCompo\webapps\ROOT\WEB-INF\classes\log4j.propertiesのバックアップを取得。
- 2) 以下のパラメータを編集。
 log4j.appender.com1.File=<!SCTAG!INSTALL_DRIVE>\SecureCompo\SecureCompo\logs\auth.log
 log4j.appender.com1.MaxFileSize=5000KB
 log4j.appender.com1.MaxBackupIndex=8
- 3) ParamGen.batを実行し、[Secure Compo]のサービスを再起動して、設定を適用。

③ WebFOCUS の WEB サーバポート

例) WebFOCUS の WEB サーバポートを 81 番に変更する場合

※WebFOCUS 導入後に WebFOCUS の WEB サーバのポート番号を変更する場合等に設定を行います。

※ParamGen.properties の編集とともに WEB サーバ側でのポート変更も実施してください。

ParamGen.properties にて以下のパラメータを検索します。

デフォルトの「WF_PORT=80」を「WF_PORT=81」に変更します。

WF_PORT=81

【DeveloperStudio を使用している場合の注意点】

DeveloperStudio から WebFOCUS サーバにアクセスしている場合は、DeveloperStudio の環境設定にて

Web サーバのポート変更を実施してください。

■ログイン後に表示される静的ページの設定

1章のWebFOCUSのレポートを実行するで「パターン2) 認証を実施してから、レポートのリクエストを実行」の処理を行う場合は、認証用のHTML(Loginform.html)ファイル中にリダイレクト先のURLを記載する必要があります。

デフォルトでは、認証後にWebFOCUSのサンプルレポート「carinst.fex」にリダイレクトする設定になっています。

- 1) 以下のディレクトリからLoginform.htmlのバックアップを取得します。

<インストールドライブ>:\%SecureCompo%\SecureCompo%\webapps%\SecureCompo%\Loginform.html

- 2) Loginform.htmlをNotepad等で開きます。
- 3) 以下のスクリプトを検索します。

```
<input type=hidden name="reqLink" value="/ibi_apps/WFServlet?IBIF_ex=carinst">
<input type=hidden name="orgLink" value="/ibi_apps/WFServlet?IBIF_ex=carinst">
<p>&nbsp;</p>
</form>
```

- 4) 「value="/ibi_apps/WFServlet?IBIF_ex=carinst"」部分を任意の静的ページを呼び出すURLに編集します。

例) WebFOCUSのアプリケーションパス「ibisamp」配下にある「menu.html」にWebFOCUSのレポートを呼び出すためのリンクが定義されている場合

```
<input type=hidden name="reqLink" value="/approot/ibisamp/menu.html">
<input type=hidden name="orgLink" value="/approot/ibisamp/menu.html">
<p>&nbsp;</p>
</form>
```

※静的ページは、WebFOCUSサーバ上の<インストールドライブ>:\ibi%\approot%配下に保存されているhtmlやaspである必要があります。

■ログアウト処理を行う為の設定

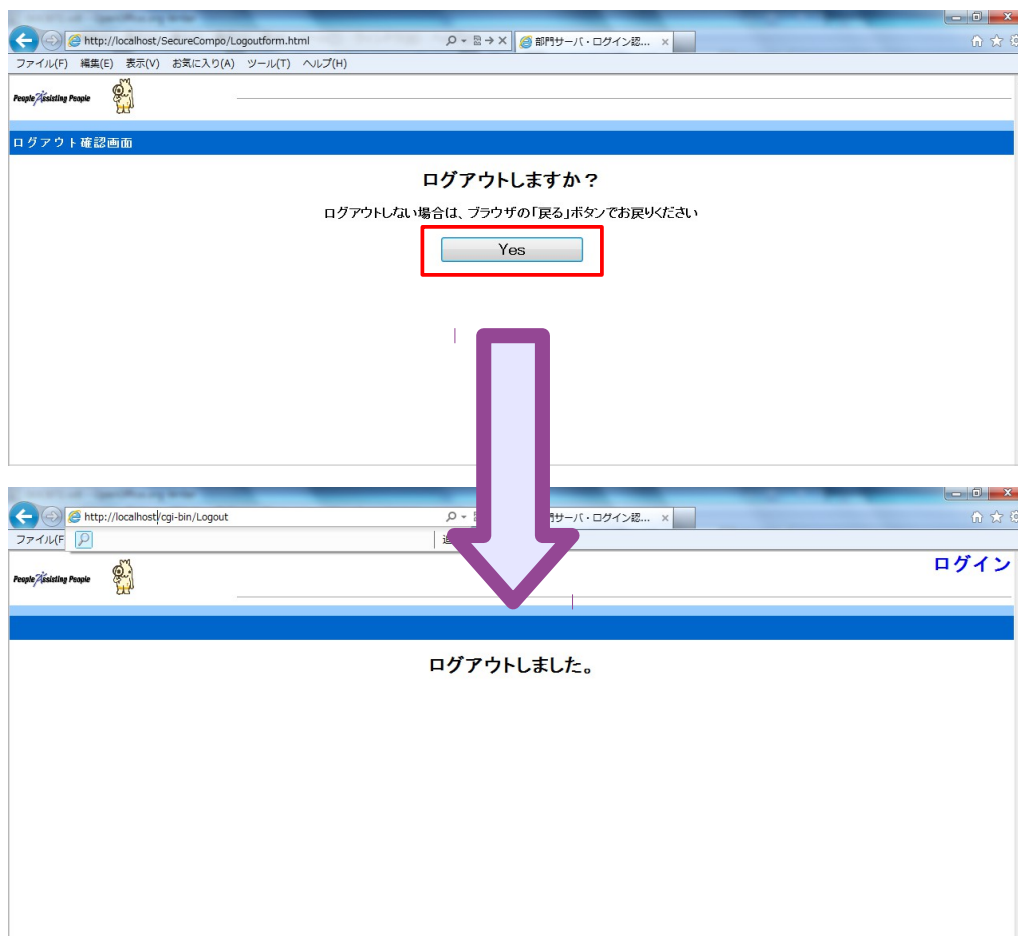
部門サーバ・ログイン認証モジュールでは、ユーザの「ログアウト」処理を行う為のリンクは、別途用意する必要があります。ユーザのリクエストは部門サーバ・ログイン認証モジュールからWebFOCUSへ渡され、WebFOCUSのレポートを表示している為、処理の流れ上、部門サーバ・ログイン認証モジュールからのログアウトをする箇所がありません。

そのため、2章のログイン状況表示に、セッションがタイムアウトするまでログインユーザとして表示され続けることになります。（デフォルトのセッションタイムアウトは2時間です。）

ユーザにログアウト処理をさせる場合には、以下のURLをメニュー等にリンクとして埋め込む必要があります。

<http://Webサーバ名/SecureCompo/Logoutform.html>

Logoutform.htmlを実行した後の処理は以下の通りです。



ログアウト後、右上[ログイン]よりログイン画面(<http://Webサーバ名/SecureCompo/Loginform.html>)に戻ります。

■WebFOCUS のセキュリティモードについて

部門サーバ・ログイン認証モジュールを利用する際は、WebFOCUS のセキュリティモードを「OFF」にして利用してください。

4 章 : サービスの開始/停止

■サービスの開始/停止

部門サーバ・ログイン認証モジュールのサービスは Windows のサービスとして登録されています。
部門サーバ・ログイン認証モジュールを使用する際は、[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス]より以下のサービスを起動してください。

※併せて WebFOCUS のサービスも起動している必要があります。

[SecureCompo] 部門サーバ・ログイン認証モジュール本体のサービスです。

[SecureCompoDBLog] ... アクセスログをデータベースに格納し、参照する場合に使用するサービスです。
 ※ファイルでアクセスログを管理する場合は、起動する必要はありません。

※注意※

[SecureCompo]のサービス起動後、初期化処理を行っている為、1分以内にログインをした場合、下記のメッセージが表示されます。

「起動処理中 しばらく後に再度ログインしてください」

本メッセージが表示された場合は、しばらく時間をおいてからログインを行ってください。